

保育環境のあり方を問い直す

子どもの遊びを促す環境構成

東洋大学 ライフデザイン学部

高山静子

* 実践を構造化する実践研究者の立場から、保育所・幼稚園・認定こども園の集団保育の場に限ってお話をします。
「保育」は、養護と教育を一体的に提供する機能を示す言葉として用いています。

参考：高山静子「環境構成の理論と実践」エイデル研究所、2014

話の前提

- 話の範囲は、保育所・幼稚園・認定こども園の遊びである。園での遊びは保育者の教育・養護の意図に支えられており、計画や評価が伴うものである。
- ここでの豊かな遊びとは、想像・思考、感覚・運動、表現、人間関係等、子どもの体験の幅が豊かであり、自己決定ができ、達成感・充足感が得られる遊びを指す。

話の概要

1. 空間/素材・道具の質と量/時間・/人的環境の観点に絞り、インタビューから得た保育者が考える子どもの豊かな遊びを促す環境を提示する。
2. 環境構成の研修研究から、環境の構成は、保育者のもつ子ども観、遊び観、保育観の現れであり、前提知識の学習によって、遊びの保育環境は改善されることを提示する。

遊びを促す環境に共通する点

- 多様性があり、遊びを自分で決める、はじめられる
- 発達に合い、挑戦できる
- 応答性が高く、想像しやすい遊びの素材と、道具が子どもの手の届く場にある
- 昨日の続きができる、続けられる空間がある
- 細切れでない時間がある
- 適度な秩序と刺激(色・音・臭い等)がある
- 必要な援助を行う保育者がいる

空間、素材・道具、時間、人的環境等が、

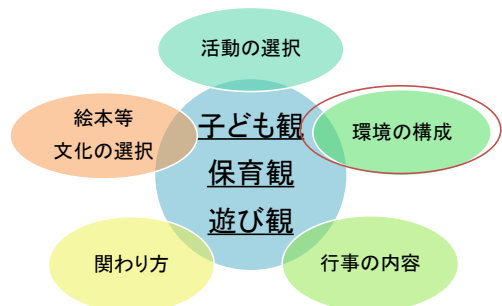
- ・自律性(自分でやりたい)
- ・有能感(できるようになりたい)
- ・関係性(大切にされたい、つながりたい)

といった根源的な欲求を支えている*

ときに、子どもは最も動機づけられ、もっとやってみたくて遊びが広がるのではないか

* 自律性・有能感・関係性はデシラ自己決定理論による。これは聖隷クリストファー大学の細田直哉氏より示唆を受けた。

環境の構成は、保育者のもつ子ども観 遊び観、保育観の現れ



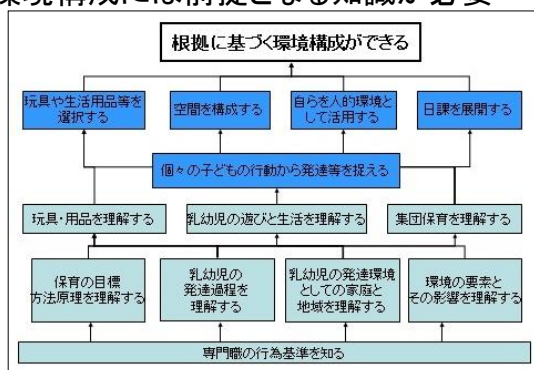
子ども観

- **子どもは幼稚、自分では遊べない**→子どもを遊ばせる楽しませる、喜ばせる保育環境（動物や車が描かれた保育用品、おもちゃ箱に入れてゴミのように扱う玩具、保育者が作る壁面飾り、人気キャラクター人形や絵本、一時的に楽しませる玩具等）
- **子どもは自分で遊びをつくりだす**→子どもが自分で遊びを作りだす環境（遊びの素材となる雑草等がある園庭、自分で遊びを創造できるように刺激を引き算した空間、素材的な玩具、子どもの手の届く場所に遊びの素材と道具を置く保育室等）

遊び観：遊びを捉える幅の広さが環境の構成に影響を与える



環境構成には前提となる知識が必要



高山静子「保育における環境構成技術の構造的な把握の試み」浜松学院大学研究論集2013.

保育環境と遊び・保育・子ども観

保育環境には、**遊び観・保育観**が現れる。子どもは大人が遊ばせる、楽しませると考えているのか。保育者の役割をどう考えているのか。保育環境には**子ども観**が現れる。子どもを幼稚な存在と捉えているのか。子どもは、感受性が豊かであると捉えているのか。保育環境には**保育者の願い**が込められる。どんな経験をしてほしいと願っているのか。どんな暮らしを保障したいと願っているのか。どんな景色をなじみ深い、美しいと感じてほしいのか。どんな原風景を子どもに手渡したいのか。どんな保育環境をつくるのか？それはどんな社会をつくりたいのか。どんな人間を育てたいのか。そこに集約されるのではない。

参考：物理的な環境に文化や体験が加わることで豊かな遊びは生まれる



参考：養護と教育の矛盾

